

ジオスペース館だより

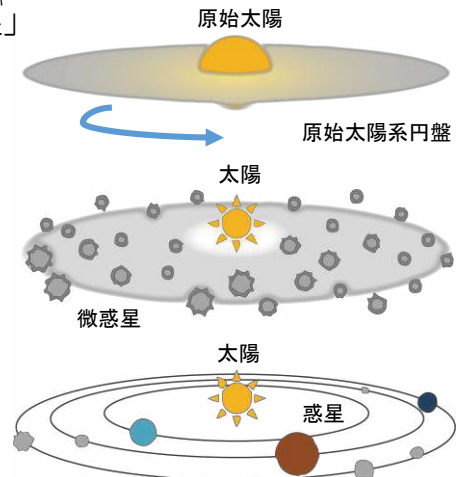
★太陽系の誕生(約46億年前)

宇宙の天体の中で、自らのエネルギーにより光り輝く星を「恒星」と呼び、恒星を中心に、その周りを惑星や小惑星などが公転する天体の集まりを「恒星系」と呼びます。私たちを照らす「太陽」も、恒星の一つで、太陽とその周りをまわる地球を始めとする惑星や小惑星の集まりを、他の「恒星系」と区別して「太陽系」と呼びます。

太陽系は約46億年前に誕生したと考えられています。太陽系の誕生以前には、宇宙空間を漂うガスやチリが何らかの理由で濃く集って《星間雲》となり、これが回転しながら、引力によってだんだん縮み、平たい円盤のようになって「原始太陽系円盤」となりました。その円盤の中心には重力の働きによる収縮で「原始太陽」と呼ばれるかたまりができ、収縮による重力エネルギーの解放で輝いていました。

原始太陽は、さらに重力収縮が進むと水素核融合反応を始め、より明るく輝くようになります。これが「太陽」の誕生です。また、太陽のまわりの円盤の中では、ガスとチリが合体して、直径10 kmほどの小さな天体《微惑星》が無数に生まれます。《微惑星》は互いに衝突と合体を繰り返して成長し、最終的には、太陽に近いところに岩石と鉄を主成分とした小さな「岩石惑星」が、太陽から遠く離れた

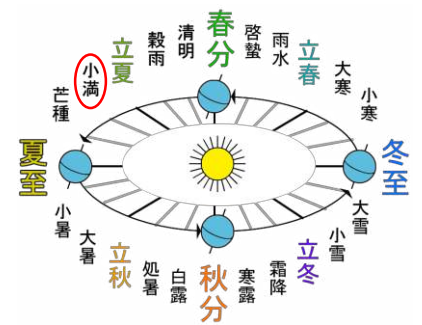
【太陽系の天体 その1】



ところにガスと氷を主成分とする「巨大ガス惑星」や「巨大氷惑星」ができました。こうして誕生した太陽系ですが、惑星に成長できなかった微惑星は、火星と木星の間で《小惑星》となったり、惑星の引力で太陽系の端に放り出されたものもあります。このほかにも、彗星やカイパーベルトなど、様々な天体があり、太陽系に関する調査や研究は、現在も盛んに行われています。

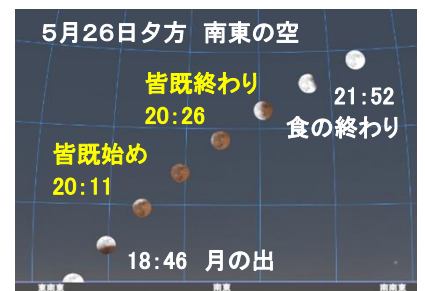
★二十四節気・5月21日は《小満》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。5月下旬の節気は《小満》といい、毎年5月21日頃です。「すべてのものが次第に成長して天地に満ち始める」という意味で江戸時代に書かれた暦便覧には、「万物盈満すれば草木枝葉繁る」と記され、すべてのものが地上に満ち(盈満)、夏の作物が実り始める季節を表しています。



★天文トピック《スーパームーン皆既月食》

5月26日の夜、皆既月食が起こります。日本全国で観察できますが、この地方では、日没とともに欠けた状態で昇り、20時11分頃に皆既食となります。皆既食中の月は暗い赤色に見えます。その後は少しずつ欠けた部分が減り、21時52分頃に、月食は終わります。今回は、月の軌道中で最も地球に接近する「スーパームーン」の皆既月食となるので、今年最大級の天文ショーといえるでしょう。ぜひ、観察して楽しんでください。

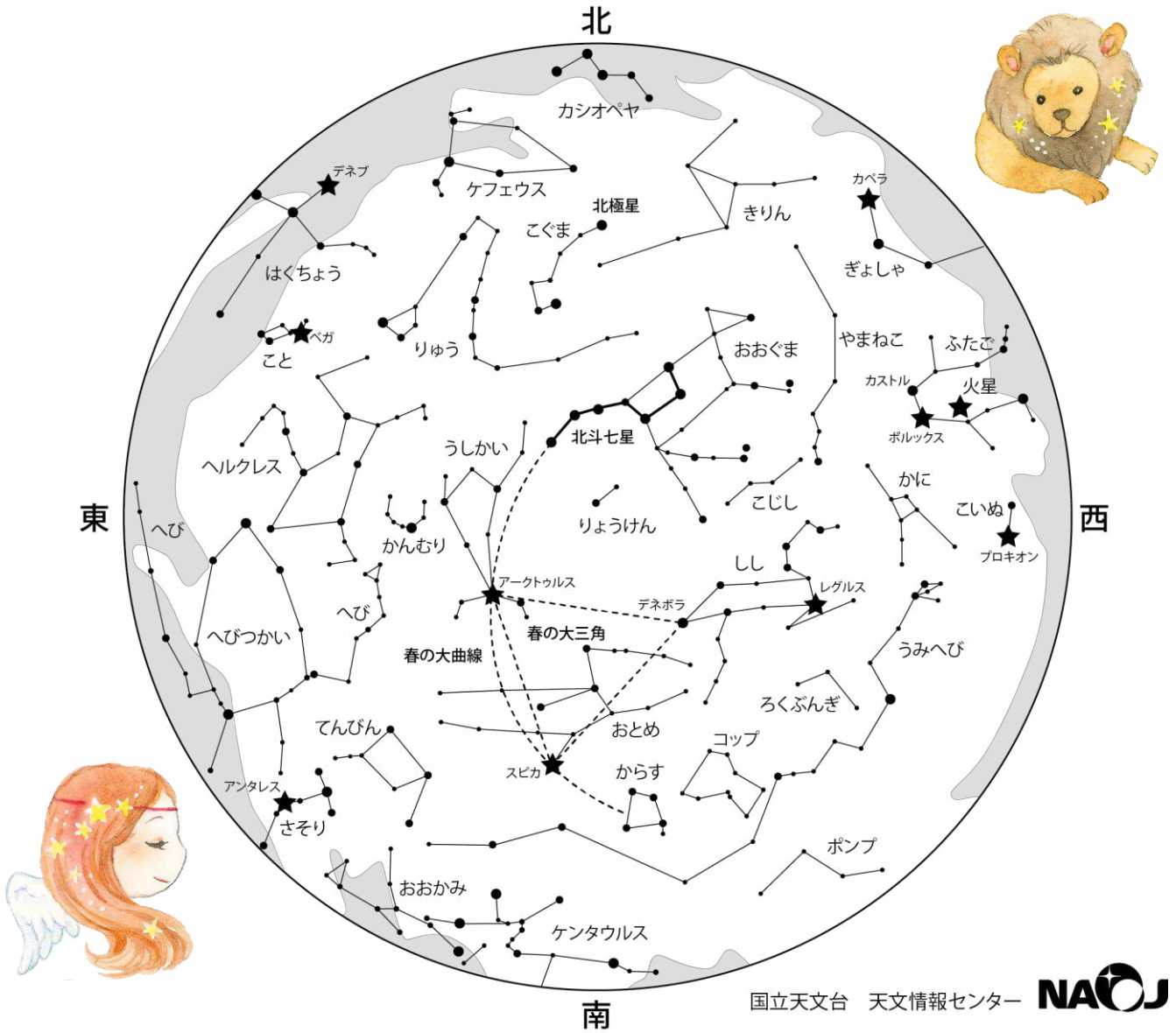


★ 5月のプラネタリウムの内容につきましては別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 5/17(月)、19(水)、24(月)、31(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

5月下旬午後8時頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 5月下旬の主な天文現象

16日(日) 月と火星と接近	26日(水) 〇 満月(本年最大の満月)
20日(木) 上弦	皆既月食(皆既食 20時11分～
21日(金) 小満	20時26分)
	29日(土) 水星と金星が接近

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 5/15～31) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 5月15日(土) [見やすさ ◎]	19:41 南南西	～	19:47 東北東
◇ 5月16日(日) [見やすさ ◎]	3:49 西北西	～	3:56 南南東
◇ 5月17日(月) [見やすさ ◎]	3:02 北西	～	3:09 南東
◇ 5月17日(月) [見やすさ ◎]	19:43 西南西	～	19:49 北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。